南会津高校進路だより

羅　針　盤

VOL.120

発行／2021年２月２６日

学校生活や学業成績の振り返りをする時期です!!

成績について

学年末考査も終わりました。通知票が終業式当日に渡されますが、１年間の成績を振り返るためにも、通知票を確認して、すぐに評定平均を自分で出してみましょう。

○　評定について

「評定」とは各教科の成績を５段階で表したもののことです。通知票の確認簿で評定の５段階を知ることができます。まずは、自分の評点を評定に換算します。

5	4	3	2	1
１００～８０	７９～６５	６４～４５	４４～３０	２９以下

○　評定平均の求め方

評定平均の求め方は、履修した全科目の評定を合計し、その科目数で割るだけです。小数第二位を四捨五入して小数第一位まで求めるので、「４．３」とか「４．５」といった数字で表されます。

本来は、高１から高３までの履修したすべての科目が対象となります。

$$\text{評定平均} = \frac{\text{１年～３年までの「全教科・科目の評定の合計」}}{\text{すべての科目数}}$$

今回は、自分の一年間の学習の反省や今後の学習目標の設定のために、学年ごとの仮の評定平均を求めてみましょう。

○　１年生

1年生は、選択科目がないので、履修した科目は全員12科目です。科目の評定の合計を12で割ります。

教科	国語	公民	数学		理科		保健体育		芸術	英語		家庭
科目	国語総合	現代社会	数学Ⅰ	数学A	物理基礎	生物基礎	体育	保健	音楽Ⅰ	C英Ⅰ	英表Ⅰ	家庭総合

○　２年生

２年生は、選択①と選択②がありますが、選択群から１科目の選択なので、履修した科目は全員１２科目です。科目の評定の合計を12で割ります。

教科	国語			地歴		数学		理科	
科目	現代文B	古典A	選択① 古典演Ⅱ	世界史A	日本史B	数学Ⅱ	選択② 数学B	化学基礎	選択① 物理 生物
教科	保健体育		体育	芸術	外国語	家庭	情報		
科目	体育	保健	選択② ｽﾎﾟｰﾂⅠ	選択② 音楽Ⅱ	C英Ⅱ	選択① ﾌｰﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	社会と情報		

○　評定平均を求めたならば

評定平均を求めて、良かった。悪かっただけでなく、自分の成績を振り返り、１年間の反省をしましょう。自分の成績が上がった部分はどこか。どの様に勉強して成績を伸ばしたのか。また、自分の弱点はどこか。どの様にすれば、弱い所を補えるのかを考えましょう。今年度の成績の自己分析にしっかりと取り組み、次年度の学習目標を設定し、成績を向上させる努力をしましょう。

特に進学希望先が明確な生徒は、その学校の推薦条件を調べておくことが大事です。今後の学習の目安にもなります。ただし、学校の推薦条件の評定平均は、あくまでも最低限のレベルです。推薦条件の数値を上回っているからと学業が疎かにならないようにしましょう。

学校生活について

○　自分の１年間の行動実績も振り返ろう。

成績以外にも、部活動・委員会活動・学校行事など１年間の実績を振り返りましょう。就職試験や推薦入試の面接で高校での生活を質問される場合が多いです。例えば、「高校での一番の思い出は何ですか。」「高校で一番頑張った事は何ですか。」などです。学年ごとに自分の行動や考え方を振り返り、今使っている手帳にメモで残しておくと、３年生になってから、面接練習や履歴書・志望理由書等で頭を悩ませることが少なくなります。

自分の振り返りをする際は、悪い面ばかりを見つけるのではなく、入学時してから高校生活を通して成長してきたことはどんなことかを見つけ出していきましょう。学業や運動・体力といった部分だけでなく、精神的な部分でどの様に成長してきたかを振り返りましょう。過去の自分と現在の自分がどの様に成長し、違ってきているのかを確認することで、今後の成長したい自分をみつけることもできます。

また、各学年で総合的な探究の時間を使って、探究活動を行っています。この活動を振り返ることによって、現在の自分の意識や考え方を整理することができます。自分と社会の関係・自分と地域の人達との関わりを見つめ直し、今後、自分がどのように関わっていけばいいのかを考える機会にしましょう。

○　自分を見つめ直して、自分の将来を考えよう。

成績や自分の実績を振り返ることで、自己分析や自己理解が深まっていきます。自分の特長や長所を理解することで、その特性や長所を活かした仕事や職業を考えることに役立ちます。

高校を卒業してすぐ就職する場合でも、専門学校や大学に進学する場合でも、自分の興味のあることや関心のあることを自分自身が理解していないと仕事や学問に対しての意欲も長続きしないものです。自分のやりたいことが明確になってきた生徒は、自分の進路に対して、職業研究や学部・学科調べに積極的に取り組むことができます。

３年生になって、就職のため履歴書や推薦入試の志望理由書といった書類を作成する段階で、何を書いていいのか分からない状態が無いように、自己理解を深め、自分の将来像を探っていきましょう。

英語の４技能について

Ｌｉｓｔｅｎｉｎｇ
聞く

Ｒｅａｄｉｎｇ
読む

Ｓｐｅａｋｉｎｇ
話す

Ｗｒｉｔｉｎｇ
書く

これまでは、英語は単なる受験科目としての側面も強く、たくさんのことを覚えても実際に英語を使う場面も限られていました。

グローバル化が進展する中で、都市部にでれば、外国人観光客が行きかい、英語が日常的に聞こえてくる社会になっています。実際に英語を使いこなせることが求められており、これからますますその場面が増えていくことになるでしょう。

４技能は、読む・聞くの「受信」技能と書く・話すの「発信」技能とに分けられます。受信技能と発信技能をバランスよく身につけ、相手と英語を用いて言葉のキャッチボールができるようになる。このことが、お互いの言語や文化・風土に対する理解を深めることにつながります。

大学受験においても、英語の４技能が重視され、推薦条件に英語の検定資格をあげている学校も多数あります。本校でも、人数がそろえば実用英語技能検定やＧＴＥＣを受験できます。大学進学希望者だけにとどまらず、自分の可能性を高めるためにもチャレンジしてみましょう!!